

# 「場」と「人」が響き合う古民家再生

誰かがここで何かを始めたいと「場」を立ち上げ、共感した人が集い、次の営みが始まり連なる。暮らしの豊かさやコミュニティの絆を重視する価値観が、新しい地域づくりの原動力になり始めています。

## 人が集まる場所づくり 触れ合う喜びに生きる80代の挑戦

下仁田町の吉崎地区で築120年の養蚕農家を改修し農家民泊を営む堀口清さん。登山愛好家を惹きつける土地柄とあって、宿泊客の8割以上が登山客です。奇跡のような80代の活力が提供するおもてなしに驚きと感謝の声が絶えません。



お礼のメッセージが書かれた色紙が壁いっぱいに飾られたリビング

農家民泊 宮畑荘 堀口 清さん



宿主の堀口清さん。食事作りはお手伝いの方をお願いしていますが、それ以外は一人で切り盛りしています。

### 家屋と敷地を託され リーズナブルな民泊を着想

都内に住む医師から、住む人のいない実家の家屋と敷地を、人の集まる場所として自由に使ってほしいと託された堀口清さん。「大正期の大きな養蚕農家と広い敷地を活かすなら、農家民泊がいいと思いました」と、2023年に農家民泊「宮畑荘」を開業しました。こんなに多くの精粉業を営みながら全国を回り、四国の霊場を幾度も巡った経験もあり、手軽に利用できる民泊の利便性を以前から実感していたからこそその着想です。オプションで、じゃがいもやサツマイモの植え付けや収穫など農業体験が楽しめます。

素泊まりは6千円。朝・夕の食事付で8千円。下仁田町で評判の精肉店の肉を使うバーベキューのオプションは1500円と、驚くほどリーズナブル。敷地内にあるバーベキュー小屋で鉄板を囲む夕食は、良質なお肉に舌鼓を打ちな

がら自然に包まれ開放感に浸れると好評です。

開業に当たってこだわったものの一つに寝具があります。「町一番の布団打ち名人に依頼し高級旅館にも引けを取らない20組を用意しました」と堀口さんは胸を張ります。快適な睡眠で旅の疲れを解消してほしいという気持ちで、日光を浴びてフカフカの状態にした布団を提供しています。

### 登山愛好家が集う宿 土地柄にも注目

荒船山や妙義山をはじめ登山を楽しめる山が多い下仁田地域。世界文化遺産の富岡製糸場や荒船風穴、神津牧場といった観光資源にも恵まれています。

「独特の地形や地質がある下仁田は中央構造線が通っています。大きな断層の中央構造線上は日本の名だたる神社仏閣が建立されるパワースポットとされ、人体の細胞が活性化し心身の状態が整った

りするそうです。また、この辺は温泉由来のミネラルが多く含まれるラドン水も湧き出ています」と話す堀口さん。温泉療養や健康維持の一環として注目されるラドン水を有効活用する設備の設置も構想中です。

堀口さんの博識ぶりに興味がそそられ、心身を癒す場所としての側面にも期待が膨らみます。

### 下仁田の食でもてなす

かつて下仁田は中山道の脇往還（裏道）として商人や旅人で賑わいました。そのため豊かな食文化が育ち、ネギやしいたけ、こんにゃくなど地元食材を使ったすき焼きも有名です。

「下仁田の郷土料理をピーアールするような食のイベントを開催したいですね」と話す堀口さん。手作りこんにゃく、タケノコの煮つけ、沢庵やシウウガの漬物など、自ら地域の食材でお茶請けを作りお客様をもてなしています。

また、駅への送迎や荷物の配達なども買って出て便宜を図るなど、その活力とアイデアがどこから湧き出るのが不思議。お客様に喜んでほしいと心を配る姿がリピーターの増加につながっています。



「出世街道」という看板と馬の像が目印。出世街道とは荒船山の登山口に鎮座する荒船出世不動尊にちなみ宿主の堀口清さんが命名。屋根の下に置かれた馬の像は、藪の中に放置されていた姿を見かね、持ち主に掛け合い譲ってもらったそうで、堀口さんの人柄が伺えます。



左：堀口さんの手作りこんにゃく。何度も湯がいてアクを取り除くという手間をかけ、こんにゃく本来の美味しさを引き出しています。右：焼き肉パーティーが楽しめるバーベキュー小屋



#### 農家民泊 宮畑荘

甘楽郡下仁田町大字吉崎字宮畑181  
TEL: 090-7002-0616 / 0274-82-3225

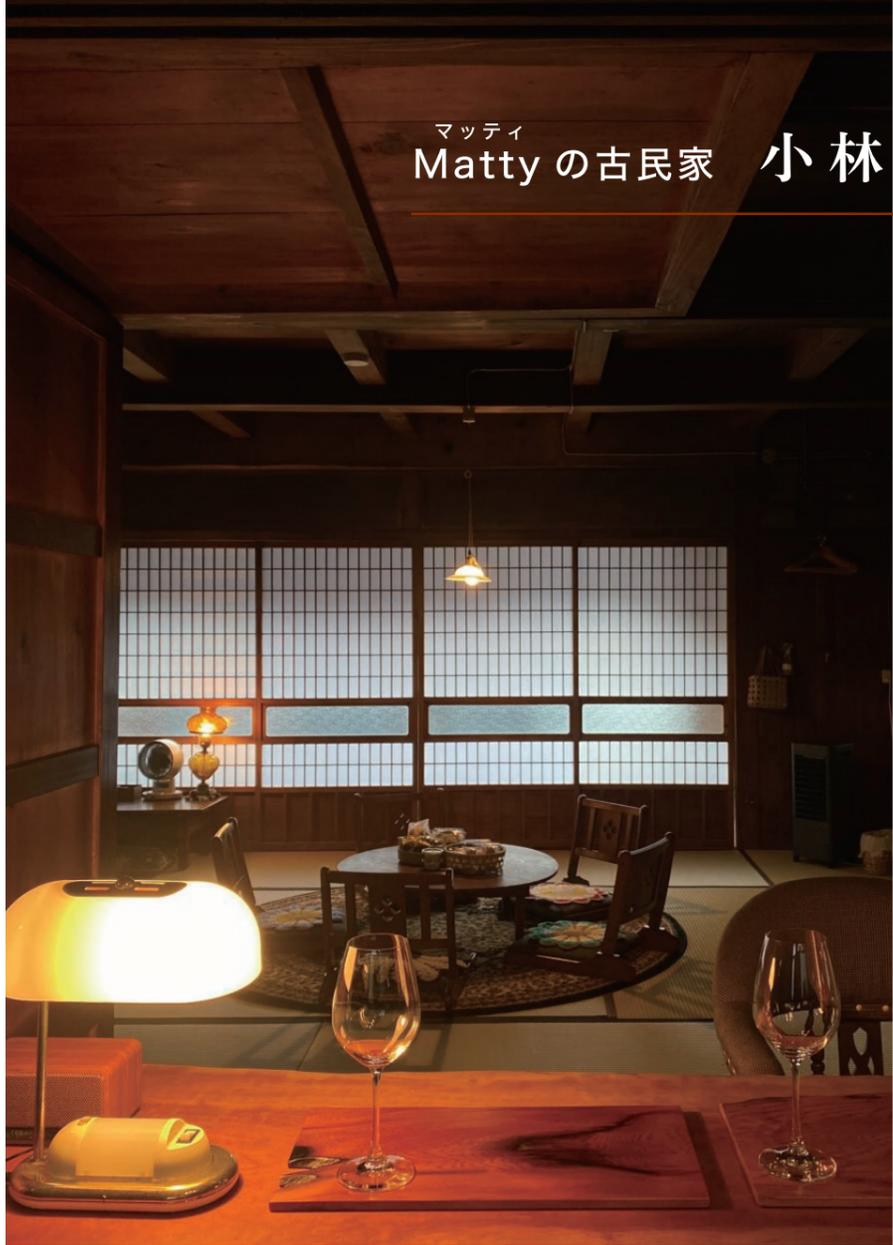
# 地元との連携を深める民泊 来訪者を惹きつける磁力に

南牧村の空き家を改修し「占い」と「体験」をコンセプトにした2棟の民泊宿を営む小林真奈さん。食事や雑貨などに地元ブランドを取り入れ地域を潤わせることにも貢献。リノベーション、インテリア、宿泊業開業等の相談が増え事業の幅を広げています。



地域に溶け込んで活動する小林真奈さん

## マッティ Matty の古民家 小林 真奈 さん



**Matty (マッティ) の古民家**  
住所：甘楽郡南牧村大日向1071-3  
TEL：070-3129-7528



地元のカフェで作ってもらったウェルカムスイーツ。背景のレトロなすりガラスが素敵です。

### 空き家活用の夢に向かって

「新築が1軒建つと3棟の空き家が出ると言われていました」と話す小林真奈さん。ハウスメーカーの新築住宅営業やリフォーム業界で経験を積みながら、空き家を活用した事業を立ち上げたいと考え、牧村の物件を古民家バンクで見つ

け、賃貸で借りられるという手頃さなどもあり半年かけて改修に取り組みました。「レトロな模様のすりガラスや細かな細工の建具など、今では簡単に手に入らない素材が残っているのが古民家の魅力。上手に活用すれば味になり、温もりのある居心地のいい空間に再生できます」と実感を込めます。

### 「ハウス」&「レトロ」に反響

2023年12月に開業した1棟目は、全国で唯一「占い」をキーワードにした一日一組限定の民泊。SNSで知ったお客様が全国からやってきます。その9割が20代〜70代の女性といえます。

真奈さんは小学3年生で占いを始めて以来、「占いは統計学」と占った人の情報を収集・分析するなど腕を磨き、人の運勢や人生のタイミングでの確なアドバイスができるようになりました。宿では夜9時から占いのタイムで、真奈

さんのお客様の話にじっくり耳を傾けながら、多様な占いに基づいたアドバイスを織り込みます。「人生の節目を迎え新たな一歩を踏み出そうとしている方が多く、カウセンセリングに近い形で背中を押せるようなアドバイスを心がけています」と話します。

お酒が好きな人には晩酌をしながらリラクゼーションした雰囲気での対話をしています。

すっかり心を開いて打ち解けたお客様が次の予約を入れていくことが多く、2年先まで予約でいっぱいという盛況ぶり。「人生の折々に訪ねてもらえる神社のような民泊をイメージしています」と話す真奈さん。占い、リノベーション、空間コーディネートなど、今まで磨いてきた知識やセンスを南牧村で開花させています。

### 地域と連携したおもてなし

近所に住む農家さんの紹介で見

に行った高台に建つ空き家物件。抜群の眺望も気に入って2棟目の民泊の宿として2025年3月に開業しました。

こちらでは「体験」をコンセプトに、地元のクリエイターさんが講師を務める陶芸や竹かご作りが楽しめます。また、宿のスタッフが担当する化粧水やパーソナルプレスレット作り、南牧村ならではの滝巡りなどガイド付きプランなども実施しています。

また、宿での食事は持ち込み・自炊のほか、デリバリーは南牧村と下仁田町の飲食店に依頼しています。ウェルカムスイーツも地元のカフェや製菓店、入浴剤やハーブティ、花なども地元産を取り入れ、道の駅等で購入できるといった案内もしています。

### 空き家や田舎ぐらしの可能性を拓く

「南牧の人たちに温かく受け入れていただいていることに感謝しがあります。地域に溶け込み、ここを盛り立てて恩返ししたいという想いがあります」と話す真奈さん。宿泊客として南牧を訪れた女性が、移住を決めたことは大変嬉しい出来事です。「Mattyの古民家」のお客様なら間違いなく、周囲の受け入れ態勢もバツ

近所に住む農家さんの紹介で見



高台からの眺望が素晴らしい2棟目の民泊宿。パーベキュー場や露天風呂も設置しています。



# 石垣と古民家が連なる 天空の集落 化学反応を起こす人々

山深い谷筋の斜面に連なる石垣と築100年以上の古民家が織りなす風景が広がる南牧村・星尾集落。山の懐深く営まれる民宿『かじか倶楽部』は、オーナーの米田優さん・道子さんご夫妻と運営を支える小保方努さんの人柄もあって、伸び伸びと心身を解放できる場所として親しまれています。



南牧村 星尾集落

## 長野県境で栄えた 豪商の家を改修

長野県境に位置する南牧村星尾集落は、養蚕や和紙、砥石、こんにやく栽培、林業などで栄え、長野県との交易も盛んでした。築100年以上の民家が今も残っています。中でもよろず屋として繁盛した『寿屋』の立派な構えの店舗兼住居を、米田さんご夫妻は地域の人や仲間の手を借りて改修し、民宿『かじか倶楽部』を開業しました。

そして、10数年前に群馬県主催のグリーンツーリズム研修で米田優さんと知り合い南牧に移住してきた小保方努さんも加わり運営を支えています。

## 15年通って 土地柄にほれ込み移住

山登りが好きだった優さんが30代の頃、週末に自然の中で過ごせる家が欲しいと思っていたころ、行きつけの居酒屋の店主が南牧に

あるおばあさんの家を使うことを勧められました。奥様の道子さんと15年ほど南牧に通い、その家を拠点に週末を南牧で過ごし、早期退職して2006年に移住しました。当時は、群馬県内でも移住者の存在は珍しく、米田さん夫妻はバイオニア的存在でした。「悠々自適に暮らすつもりでしたが、歴史や文化が残る星尾集落の過疎化を食い止め元気にしたい」という気持ちが強くなりました」と、優さんは人が訪れ雇用を生み出す場所を作りたいと一念発起しました。

## 古民家、温泉、自然の息吹 都会にないものが吸引力

豪商だった名残を伝える贅沢な造りの欄間や床の間が目をはく40畳もの純和室。総檜のベッドルームを設えた20畳の和洋室。各部屋には温泉が引かれ、眼下を流れる清流のせせらぎを聴きながら24時間バスタイムが楽しめます。

夏のベストシーズンは家族連れが多く、クワガタ、カブトムシ、星尾川にできた天然の岩盤スライダ―、満天の星に、大人も子どもも夢中になります。「私たちの年代の男は子育てに参加することが少なかったので、孫世代にせめてもの罪滅ぼしです」と優さんは話



左から米田優さん・道子さん・小保方努さん。小保方さんはこの秋に独自の民宿を開業予定です。



## 24時間入浴可能な温泉(各部屋)

米田さんと小保方さんは、周囲の手を借りて80年前に途絶えた星尾温泉を2017年に復活させ、古民家を改修し温泉施設を開業しました。その後、温泉成分が配管にたまるなど故障の原因となり休館。現在では、鉄分を含んで黄金色をした温泉は『かじか倶楽部』に引き込まれ、お客様に喜ばれています。



そば打ち体験



道子さんが腕ふるう食事も好評



総檜のベッドルームもある20畳の広さの和洋室



木製の大きなテーブルと長椅子、囲炉裏がある食堂スペース



和室は廊下を合わせると40畳もの広さ。立派な細工の欄間や床の間が繁栄を伝えています。

## 星尾温泉 かじか倶楽部

住所：甘楽郡南牧村星尾1235-1 TEL：090-1558-2899 URL：http://www.nanmoku.ne.jp/~kajika/